

- 問1 岡山県と東京の間の移動において、航空機の利用割合が約3.5割であるのに対し、鉄道の利用割合が約6割と高くなっています。このように鉄道が主要な移動手段となっている理由として、地理的な背景から説明したものととして最も適切なものはどれですか。（2018年 愛媛県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 山陽新幹線の運賃が全国の他の路線と比較して極めて安く設定されており、経済的優位性が高いため | 2. 岡山県内には空港が整備されておらず、隣接する県まで移動する手間がかかるため | 3. 新幹線の所要時間が約3時間強であり、空港への移動時間等を含めた航空機の利便性と比較して競争力が高いため | 4. 東京との距離が非常に近く、航空機を運航させるための採算が取れない距離にあるため |
|--|--|--|--|
- 問2 島根県東部における1989年と2019年の工業団地の分布を比較すると、近年は新しく整備された自動車専用道路（国道9号・54号のバイパス等）の沿線に工業団地が目立つようになっています。このような工業の立地傾向について述べた文として、正しいものはどれですか。（2024年 島根県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------------------|--|--|--------------------------------------|
| 1. 労働力を確保するため、駅前などの鉄道の利便性が高い場所に集約された | 2. 騒音問題を避けるため、交通量の多い道路沿いから鉄道沿線へと移転が進んだ | 3. 高速道路網の整備にともない、製品の搬出に適した道路沿いへの立地が進んだ | 4. 大型船の入港を前提とした重化学工業が、内陸のバイパス沿いに進出した |
|--------------------------------------|--|--|--------------------------------------|
- 問3 四国地方の各県の県庁所在地について述べた文として、正しいものを次のうちから選びなさい。（2025年 高知県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 香川県の県庁所在地は高知市であり、讃岐うどんの生産が非常に盛んである。 | 2. 高知県の県庁所在地は徳島市であり、太平洋に面したカツオ漁の拠点となっている。 | 3. 愛媛県の県庁所在地は松山市であり、夏目漱石の小説の舞台にもなった温泉地がある。 | 4. 徳島県の県庁所在地は松江市であり、鳴門の渦潮に近い場所に位置している。 |
|--|---|--|--|
- 問4 中国・四国地方を地形の特徴に基づいて区分する際、中国山地の北側に位置し、日本海に面している地域の名称として適切なものはどれですか。（2024年 岐阜県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|--------|--------|-------|
| 1. 山陽 | 2. 瀬戸内 | 3. 南四国 | 4. 山陰 |
|-------|--------|--------|-------|
- 問5 岡山県と香川県を結ぶ瀬戸中央自動車道の開通が、この地域の交通状況に与えた影響を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2018年 広島県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------------|---|--|---|
| 1. フェリーの運賃が大幅に引き下げられたため、船舶による物流が急増した。 | 2. 橋の通行料金がフェリーより安価に設定されたため、徒歩による利用者が増加した。 | 3. 高速道路の開通に合わせ、フェリーの航行速度を上げる技術革新が起こり、所要時間が短縮された。 | 4. 船舶から鉄道や自動車による移動に切り替わったことで、移動の待ち時間が解消され迅速化した。 |
|---------------------------------------|---|--|---|
- 問6 中国・四国地方を南北に分けたとき、北側の中国山地と南側の四国山地には含まれた瀬戸内地域において、年間を通じて降水量が少なくなる理由として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 標高の高い山々に囲まれた盆地状の地形で、常に高気圧に覆われる性質があるため | 2. 大陸からの冷たく乾いた空気が、山地を越える際に水分を吸収して乾燥するため | 3. 冬の北西の季節風が中国山地に、夏の南東の季節風が四国山地にそれぞれ遮られるため | 4. 暖流である黒潮の影響によって上昇気流が発生し、乾燥した空気が滞留しやすいため |
|--|---|--|---|
- 問7 四国地方の県庁所在地の位置関係において、四国山地を境に他の3つの県庁所在地とは離れて太平洋側に位置し、かつて土佐藩の城下町として発展した都市はどこですか。（2018年 鹿児島県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 松山市 | 2. 高知市 | 3. 高松市 | 4. 徳島市 |
|--------|--------|--------|--------|
- 問8 香川県高松市の年間降水量は約1080mmであり、日本海側の鳥取市（約1910mm）や太平洋側の高知市（約2550mm）と比べて非常に少なくなっています。このように、瀬戸内地方で年間を通じて降水量が少なくなる地形的・気象的な理由として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 山形県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 緯度が低いために蒸散作用が激しく、雲が発達する前に水分が消失してしまうため | 2. 暖流である日本海流の影響により、沿岸部の気温が上昇して乾燥した空気が停滞するため。 | 3. 冬の季節風が中国山地に、夏の季節風が四国山地によってさえぎられるため。 | 4. 周辺に高い山地がないため、湿った空気が雨を降らせることなく通過してしまうため。 |
|--|--|--|--|
- 問9 瀬戸内海沿岸の地域では、年間を通じて降水量が少なく晴天の日が多いという気候の特色が見られます。このような気象条件が形成される理由として、地形と季節風の関係を説明したものととして正しいものはどれですか。（2019年 兵庫県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------------------|--|---|--|
| 1. 貿易風が一年中吹き抜けることで、上空の雲が常に押し流されているため | 2. 冬の季節風が日本海側で水分を落としたあと、高い山地がないためそのまま吹き抜けるため | 3. 暖流である対馬海流の影響により、一年を通じて乾燥した空気が流れ込みやすいため | 4. 北側の中国山地と南側の四国山地が、湿った空気を運ぶ季節風をさえぎるため |
|--------------------------------------|--|---|--|
- 問10 スペイン、イタリア、ギリシャといった地中海沿岸の諸国が世界的な主産地となっている農産物があります。日本国内においても、地中海性気候に似た温暖で雨の少ない気候を利用して栽培が行われており、香川県が国内生産量の9割以上を占めています。この農産物として最も適切なものを選択してください。（2016年 東京都公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|--------|--------|
| 1. オリーブ | 2. コーヒー | 3. ぶどう | 4. パナナ |
|---------|---------|--------|--------|
- 問11 本州四国連絡橋の整備が、四国地方と本州の間の交通や人々の生活に与えた影響について、背景や仕組みを含めて説明したものととして適切なものはどれですか。（2019年 兵庫県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 本州四国連絡橋のすべてのルートにおいて鉄道が併設されたため、自家用車や乗合バスによる移動よりも、新幹線による旅客輸送が四国全域で最も一般的になった。 | 2. 橋の開通によって本州からの観光客は増えたが、四国内の道路整備が遅れたため、乗合バスの利用は徳島県内などの一部地域のみに限定されるようになった。 | 3. 橋の整備によって自動車の通行台数は増えたが、維持管理コストを賄うために通行料金が高騰し続けたため、物流の主体は再び船舶による貨物輸送へと戻った。 | 4. 明石海峡大橋などの開通によって移動時間が大幅に短縮され、京阪神地域と四国を直接結ぶ乗合バスのネットワークが発達したことで、人々の往来が盛んになった。 |
|---|--|---|---|
- 問12 島根県の産業的特色について説明した文として、統計的な事実に基づき最も適切なものを次のうちから選んでください。（2019年 島根県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 観光業に特化した産業構造を持ち、第3次産業の割合が全国で最も高い一方で、県内に温泉地はほとんど存在しない。 | 2. 第1次産業の就業者が半数を超えており、製造業はほとんど行われていないため製造品出荷額の統計が存在しない。 | 3. 第1次産業の就業者割合が約8%であり、製造品出荷額が1兆円を超える一方で、43箇所の温泉地などの観光資源を有している。 | 4. 日本最大級の工業地帯を擁しているため、製造品出荷額が数十兆円に達し、第1次産業の就業者割合は極めて低い。 |
|--|---|--|---|